

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年9月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1190600021
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	春日部ケアセンターそよ風
所在地	〒344-0004 埼玉県春日部市牛島391 (電話) 048-753-3820

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	325 円	昼食	425 円
	夕食	625 円	おやつ	125 円
または1日当たり1,500円				

(4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秀和総合病院、かみむら歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、東武野田線藤の牛島駅から徒歩10分弱ぐらいのところにある2階建ての瀟洒な建物である。農地や新興住宅と従来からの住宅が入り混じった場所であり、たいへん静かなところにある。1階部分はデイサ - ビスで、グループホームは2階にある。2ユニットは、事務室を中心に左右に線対称に同じ間取りになっており、1ユニット9名の個室で18名の利用が可能で、ユニットそれぞれのカラーがある。運営母体の株式会社の系列のグループホームとは様々なつながりがあり、開設から2年経って、職員の方達のたいへんな努力のあとが壁に飾ってある写真などをみるとよくわかる。開設以来勤めているセンター長を中心に、ユニットごとの色合いを出しながら、まとまってケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、職員全員や運営推進会議を巻き込んでの自己評価に至らなかった点が改善事項にあがったが、今回は、自己評価の作成段階から職員全員が参加し、項目の理解に努めるなど、十分に改善が認められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、センター長だけでなく職員全員が作成段階から参加し、項目の理解に努めており、評価を活かした取り組みが伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1度、運営推進会議が開催されている。防災に関することや家族との関わり方などについて話し合われており、ホーム側は家族に多く参加してもらい、自分達の生活を見てもらうことを考えている。詳細な議事録を全家族に郵送するなど、積極的な取り組みがみられる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの玄関に意見箱を設置するとともに、本社にはお客様相談室(介護なんでも相談室)があり、フリーダイヤルで受付している。家族会は結成されていないが、運営推進会議には家族の参加を得ており、家族が集まる機会をとりえて要望などを聞いているが、表出された意見の反映までには至っていないものもある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加している。また、地域の一員として清掃活動に参加したり、防災訓練に参加することで積極的に地域とつながりを持つと活動している。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本社からの運営方針もあるが、ホーム独自の理念については、毎年ユニット職員でユニット毎に話し合っていて決めている。しかし、地域の中で暮らしていくという視点が理念に盛り込まれていない。	○	ホーム独自の理念はつくりあげられているため、今後は地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念の確立が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	系列のグループホームの会議、ホーム会議、ユニット会議を、理念に基づいたものとして行われているかどうか、どこまで出来ているか、それに向けての取り組みになっているかどうかの確認の場としている。また、理念を目に見えるところに掲示し、職員一同に浸透するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、清掃活動や防災訓練に参加するとともに、中学校の総合学習への参加・取り組みを行っている。また、ホームの行事の際に、近くの学校から折りたたみ椅子を借りたり、地域からの助けも受けるなど、良好な関係を築きつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、自己評価を作成する段階から職員に関わってもらうなど、この評価を活かそうとする活動に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度の割合で行われている。会議では、利用者はどう関わっていくのか、センター長を中心に、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族が参加する中で話し合いがもたれている。家族も積極的に参加しており、また家族全員に議事録を郵送、配布するなど配慮がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会をとらえて、積極的に事業所内の疑問や情報を市担当者にEメールを利用して報告しており、市も介護保険事業に積極的に取り組んでいる。介護保険の更新認定調査は市の担当者が行っており、ホームに足を運ぶことで市とつながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については書面(出納帳)で個々に家族へ報告している。利用者の暮らしぶりについてはデイサービスとともに作成し発行している「そよ風通信」で家族に必ず知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。また、本社にお客様相談室(介護なんでも相談室)があり、フリーダイヤルで受付している。運営推進会議で報告されている内容の中には、反映されるべきものもあるが、改善に向けて取り組めていない。	○	運営推進会議で取り上げられている議題については、家族も交えて職員と話し合いをもち改善に努め、家族等の意見が反映されることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本社の組織が大きく、近隣に系列のグループホームが出来る時などに異動があった。その際は、口頭で伝えたり、運営推進会議で報告するなど、できるだけ利用者に影響が出ないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画が作成され、研修を行っている。新人には、孤立しないように3か月間はトレーナーがつくようにして働きながら職員育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社の組織が大きいため、系列のグループホームのセンター長の交流の場はある。地域のグループホームとの交流はなく、地域で組織の立ち上げをしようと話し合っている。	○	今後、地域のグループホームとの交流の場として組織を立ち上げる検討も含めて、他の法人も含めて同業者と交流する機会をもちネットワークづくりがされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染めるようサービス利用開始前に体験入居をすることができる。また、何度も自宅を訪問し、家族との話し合いを欠かさないようにして、安心して利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相手の立場に立って、すべてのことを進めていくように心がけ、共に支えあいながら生活していくことを意識しながら関係づくりに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『ニーズ把握ノート』を作成し、本人の希望に添えるよう努力している。また、集団の中で言えないことがあったりしても、自分がここで生活してもいいんだと思うことができるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合いながら介護計画を作成している。特定の利用者について、時間をとって話し合うこともある。利用者本人や家族の希望、要望が介護計画に反映されるまでには至っていない。	○	たいへん細かい介護計画を作成しているが、マニュアルの様である。実現可能な目標を挙げるなど介護計画の見直しを検討し、本人や家族の意見が反映された計画の作成が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意向が反映されるよう見直しを行っており、退院後の状態の変化がある時なども介護計画の見直しが行われている。また、食事についての栄養カンファレンスが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	アニマルセラピーやリハビリのための理学療法士の訪問などをデイサービスとともに行っている。また、状況に応じて本人のかかりつけ医の受診の際に、職員が付き添うこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する主治医に受診することができる。また、月1回の協力医師による定期的な往診もあり、適切な医療を受ける支援体制はある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、終身の利用はできないことを家族に伝えてある。現在の職員配置等の体制ではターミナルの方を見るのは困難な状況であるが、職員は主治医の助言を受けながら話し合い情報を共有している。今後、デイサービスの体制も含めて検討しようとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないよう、対応する際は言葉遣いにも配慮している。また、個人情報の取り扱いに関しては、守秘義務について契約書にも記載されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで作成した『ニーズ把握ノート』を活用しながら、本人の希望に添えるよう努力し、一人ひとりのペースに合わせた生活を送ることができるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けや配膳など、利用者と共に行うよう声掛けをしている。また、目で見て楽しむことも食事においては大切なこととして捉えている。食事介助を必要としている利用者もいるため、利用者と職員と一緒に食事ができていない。		より食事が楽しい時間となるためにも、2つのユニットの職員間で調整するなど工夫し、一緒に食事をとることができるようになることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別入浴の設備が整えられており、状態によっては1階のデイサービス内にあるチェアーイン浴槽を利用することもでき、入浴を楽しめるように工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くのお店に買い物に行ったり、ドライブに出かけたりして、気晴らしにつながるような支援を心がけ、張り合いのある生活になるよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩をしたり、あるいは少し遠出することもある。外出については、天候や体調にもよるが、本人の意向に添うように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを行っている。職員は利用者の居場所や状況を把握するようにし、利用者の安全確認は記録からも徹底されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的に行われており、地域の協力を得ながら行われている。ホームの防災訓練には自治会長にも参加していただいております。また、地域の防災訓練には職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて個別にも対応しており、食事や水分の摂取量についても記録が残されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設から2年が経過しているが、共用空間は清潔が保たれており、利用者の作品なども飾られ、季節感を採り入れながら居心地よく過ごせるように努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室内には壁に埋め込み式の箆笥があり、十分なスペースがとってある。入居前に自分で使っていた馴染みの家具を持ち込むことで安心して居心地よく過ごせるようにしている。また、食事の際の食器（お茶碗・汁碗・湯飲みなど）は個人のものを使っている。		